

# Aさんのゴミ拾い登校

先週のことです。黄色いヘルメットをかぶり、ランドセルを背負った3年生のAさんが、朝の職員室へやってきました。手にはレジ袋をぶら下げています。どうしたのかと尋ねると、登校中にゴミが落ちているのに気づいて拾ってきたということでした。

自分が住んでいる町をきれいにするために進んでゴミ拾いをしてあげていることを知り、校長としてとても嬉しく思いました。

そして昨日です。職員室へと続く廊下をAさんが歩いているのを見かけました。手にはやはりレジ袋がありました。

**「ゴミがおちていたから、ひろってきました。」**

**「ありがとう。町がきれいになるね。教室へ入る前によく手を洗ってね。」**と私が受け取ると、

**「ありがとうございます。」**と言って、Aさんは安心して教室へ向かいました。

担任の先生にこの話をすると先生も既に承知していましたが、ゴミ拾いをするようになったきっかけは分からないようでした。おそらく、Aさん自身が通学路にゴミが落ちていることに気づいて、自分から拾いたいと思ったのでしょう。

そう言えば、初めてゴミを拾ってきてくれた日からAさんはレジ袋にゴミを入れていました。もしかするとゴミが落ちていることが気になって、ゴミ拾いをするために家からレジ袋を持ってきたのかもしれませんが。

LAエンゼルスの大谷翔平選手が、試合中にゴミを拾っている話は有名です。なぜ有名かと言うと、他にそういうことをする人がいない（少ない）からでしょう。

ゴミが落ちていても、『拾おう』と自分が思わなければ拾えません。それは、大リーグのグラウンドでも、学校の廊下でも、おうちの中でも、通学路でも同じです。Aさんには大谷選手と同じような清らかな心が育っているのでしょうね。

Aさんが拾ってきているのは、空き缶やお菓子の入っていた袋といった人工物です。

Aさんが拾わなければならないようなゴミが通学路からなくなって、毎朝気持ちよく学校へ来ることができるといいなあと思います。